

編集後記

第65巻第2号(2019年6月号)をお届けいたします。本号は、第120回日本医史学会学術大会の抄録号となりますが、いま「日本医史学雑誌」は大きな岐路に立たされています。

内に目を向ければ、学会の財政問題や印刷用紙の値上げや賃上げなどに伴う印刷経費の上昇など、従来の学会誌の刊行形態に再検討を迫る状況があります。

また、外に目を向ければ、ジャーナル・論文のオンライン公開が学界の趨勢となっております。本学会のウェブサイトにおいても、一定の時間が経過したバックナンバーの公開を既にはじめており、また加えて国立国会図書館デジタルウェブにおいても「中外医事新報」の公開がはじまりました。さらに、これらの趨勢は、著作権のあり方についての議論も巻き起こしております。

学会誌の役割は、会員の研究成果を公にし共有することにより、成果の継承と学問のさらなる発展を目指すというところにあります。どのようにすれば、内外の状況に対応しながらその役割を果たし続けていけるのか、議論を重ねていければと考えております。

(松村 紀明)